

社労士研修システム講座開講のお知らせ

論文の書き方

昨今リカレント教育やリスキリングのため大学院に通われる社労士も多く、「論文」を執筆し、発信する機会が増えている現状があります。

こうした活動は、労働・社会保険諸法令に関する唯一の国家資格者である社労士が、労働・社会保障全般及び人事・労務管理に関する問題点、課題について、その問題点や課題の現場や、その運用の実態を踏まえた考察をし、学術的知見として対外的に発信することを意味し、学問研究に貢献するとともに問題点の改善や課題の克服に資するものであると考えております。

また、社会保険労務士総合研究機構では、毎年、社労士研究助成制度を設けるなど、学術研究の支援を行っているところです。

高度の専門的知識を有する国家資格者である社労士が、その有益な専門的知見を活発に、発信いただくために、本講座を参考にいただければ幸いです。

講師：松山大学法学部教授
社会保険労務士総合研究機構所長
村田 毅之 氏

内容：・社会保険労務士が論文を書くことの意義
・論文とは
・論文を書く際の基本的留意点
・論文作成の手順
・注の表記の仕方
・「論文」を知り「論文執筆」に取りかかる実践的準備作業
・おわりに 社会保険労務士への期待

時間：16分

こちらの二次元コードから
研修システムにアクセス出来ます。



【参考】社労士総研では、連合会ホームページ内に各年度の研究プロジェクトや『月刊社労士』に掲載した過去の記事を掲載しています。

①連合会トップページ→②連合会・社労士会について



(URL)
<https://www.shakaihokenroumushi.jp/organization/tabid/279/Default.aspx>



▼③社会保険労務士総合研究機構



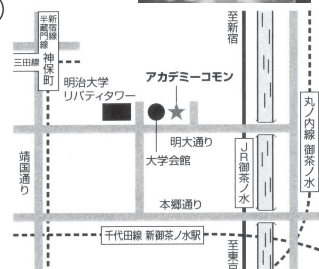
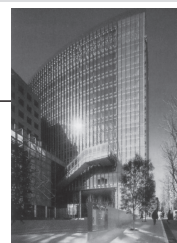
2023年度秋期 リバティアカデミー (社会人講座) 開講のご案内

※秋期講座は「Zoomによるリアルタイム配信型」のみの実施となります。
受講方法・お申込方法等の詳細は、リバティアカデミーHPでご確認ください。

お申し込み・お問い合わせ

明治大学リバティアカデミー

平日 10:30 ~ 19:00
土曜 10:30 ~ 15:30 (日祝休業)
TEL 03-3296-4423
FAX 03-3296-4542
Mail academy@mics.meiji.ac.jp
URL https://academy.meiji.jp
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学駿河台校舎
アカデミーコモン 11 階



社会保険労務士 総合研究機構後援講座 **人を大切にする働き方・働かせ方**

講座趣旨

「働き方改革関連法」が本格的に施行され、長時間労働の是正、同一労働同一賃金などの人事労務管理の課題への対応を迎えた中、新型コロナウイルス感染症が拡大し、テレワークをはじめ、半ば強制的に導入されるなど、「働き方」、「働かせ方」は一変しました。

どういった課題であれ、企業と職場の発展の原動力はそこで働く従業員の「意欲」であることに間違いはありません。いま従業員は、かつての壮年男性の正規雇用だけでなく、多様な雇用形態の従業員、例えば女性、高齢者、障害者などが働いています。企業の成否はこれらすべての従業員の「意欲」をどう引き出していくのかにかかっています。

本講座では、多様な従業員が「意欲」をもって働けるような人事労務管理の課題を検討します。

講座概要

コーディネータ	黒田 兼一 明治大学名誉教授
曜日	水曜日・木曜日
時間	19:00~20:30
定員	30人
回数	全6回
受講料	一般: 20,760円(税込)
教材	オリジナルレジュメ

申込方法

明治大学リバティアカデミーHPよりお申込みください。



回	講義月日	内容	担当講師
1	10/18 (水)	【講座ガイダンス】ダイバーシティ・マネジメントの勧め 人を大切にする働き方・働かせ方の重要ポイントの一つは、性や年齢、考え方も多様な人々が意欲をもって働ける環境をつくることです。人材多様性を前提とした人事労務管理の重要性と本講座のねらいをお話します。	黒田 兼一
2	10/25 (水)	高齢者雇用の諸問題とポイント 高齢者雇用における雇用環境の整備・改善上の諸問題や、高齢者活用のポイントについて説明します。	金網 孝
3	11/2 (木)	様々な性的指向・性自認への対応のあり方 LGBTに関し、企業が人事労務管理上知っておくべきことや課題を学びます。	飯塚 知世
4	11/8 (水)	本気の女性活躍～正社員も非正規も～ 女性活躍は「企業と働く側」双方のため。しかし、そうならない場合も多いもの。では両者ともに手ごたえを得るにはどうしたら良いのか?雇用の本質から考えます。	平田 未緒
5	11/15 (水)	障がい者雇用と人材戦力化 アフターコロナを見据え、障がい者の能力の可視化から、未来の多様な人材戦略を学びます。	高橋 陽子
6	11/22 (水)	これからの日本的人的資源管理と企業行動 グローバル化で日本企業は何を求められ、どのように変わっていくのか。日本企業のこれまでとこれからの、人・組織・経営の視点から考えていきます。	田村 豊

コーディネータ・講師紹介



くろだ けんいち

黒田 兼一

コーディネータ 明治大学名誉教授

明治大学大学院経営学研究科修了。専門は人事労務管理論。自動車産業を中心に、戦後日本企業の人事労務管理を研究。1992年から1年間イギリスに、2002年から2年間アメリカに滞在し、現地日系企業の人事労務管理と労使関係を調査。現在は日本の人事労務管理の「これまで、いま、これから」に焦点をあてた研究に取り組んでいる。最近の著書に『戦後日本の人事労務管理』（ミネルヴァ書房）、『フレキシブル人事の失敗』（旬報社）、『人間らしい「働き方」・「働かせ方』』（ミネルヴァ書房）など。



かねつな たかし

金網 孝

社会保険労務士法人金網事務所 代表社員

明治大学商学部を卒業後、東洋信託銀行（現・三菱UFJ信託銀行）勤務。2002年10月、金網社会保険労務士事務所入所。2003年9月、社会保険労務士登録。実務に従事しながら、2008年3月、明治大学大学院法学研究科博士前期課程修了（法学修士、労働法専攻）。2013年度から、（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構より高齢者雇用アドバイザー委嘱。2017年度から、淑徳大学にて兼任講師（労働法、社会保障法を担当）。



いづか ともよ

飯塚 知世

社会保険労務士

明治大学法学部卒業。社労士を中心とした有志グループSR LGBT&Allies所属。音楽制作会社にてアーティストマネジメント、バックオフィス業務全般に従事。2014年、社会保険労務士試験合格。人材の多様性やライフスタイルの変化に応じて、すべての人が自分らしく働ける会社づくりを支援するため2017年5月、スピカ社会保険労務士事務所を設立。大学在学中よりヨーヨーパフォーマーとして活動。【ヨーヨー社労士®】としてメディア出演等、幅広く活動中。



ひらた みお

平田 未緒

(株)働きかた研究所 代表取締役

1996年より求人企業内シンクタンク「人と仕事研究所」に所属。企業側の意識と、働く人の意識や気持ちをインタビューし続ける。同所所長を経て2013年に独立、企業と働く人が共にニーズを満たしあい、企業業績を高める「相思相愛」フレームワークを開発し、これを用いたコンサルティングを開始する。著書に『パート・アルバイトの活かし方・育て方』『なぜあの会社には使える人材が集まるのか』（ともにPHP研究所）など多数。各種公的委員や、新聞・専門誌等への寄稿・執筆も多い。



たかはし ようこ

高橋 陽子ダンウェイ(株) 代表取締役社長
特定社会保険労務士
キャリアコンサルタント

数社の企業総務人事を経験後、息子の障害をきっかけに、2010年、社会保険労務士事務所を開業。障害者を取り巻く社会的課題解決のため、2011年にダンウェイ(株)を設立。障害者の能力の可視化を行う「シームレスバディ」(特許取得)を開発し、障害児者の切れない自立・就労支援を実施し、実績を出す。また、インテル(株)と協働し、「ICT治具」を開発。中小企業支援×障害者の新職域拡大を目指す。2016年度全国商工会議所「女性起業家大賞」受賞。



たむら ゆたか

田村 豊明治大学大学院経営学研究科兼任講師
愛知東邦大学経営学部教授

明治大学大学院経営学研究科修了。博士(経営学)。専門は人事労務管理論、生産マネジメント論。スウェーデン企業の経営戦略と人事戦略の相互関係について日本企業との比較を行い、企業組織力と人材戦略について国際比較の視点から研究を行っている。著書に『「人材ポートフォリオ」と経営労務監査の新たな展開—企業経営の展開とHRMの戦略化を図るために—』(社労士総研)、「スウェーデンにおける作業研究と“労働のスウェーデン・モデル”—歴史的検討をふまえて—」(明治大学『経営論集』)など。

第6回 社労士社会政策研究会 開催のご案内

社会保険労務士総合研究機構では、「労働法制・労務管理」「年金・社会保障」及びこれに関連する研究発表の場の継続的な提供、研究成果の普及・発信を行い、企業の健全な発達や労働者等の福祉の向上に寄与するとともに、社労士の地位向上に貢献することを目的として、毎年、「社労士社会政策研究会」を開催しています。本年度においても以下のとおり開催しますので、この機会にぜひ、ご参加ください。

開催概要

- **実施方法** ハイブリッド開催（オンラインと来場の同時開催）
※本年度はオンライン（Zoomウェビナー）参加者に加え、当日配信会場で参加する方を募集します。
- **日 程** 2023年12月6日(水)
第1部（基調講演、研究成果発表） 13：00～14：55
第2部（分科会） 15：10～16：40
第3部（意見交換会※来場参加者のみ） 第2部終了後～18：00
- **対 象 者** 会員（社労士であればどなたでも参加が可能です）
- **参 加 費** 【来場参加者】 3,300円（意見交換会参加費込、消費税込）
【オンライン参加者】 無料
- **定 員** 【来場参加者】 第1部：60名 第2部：各分科会30名
※申込者多数の場合は抽選させていただきます。
【オンライン参加者】 第1部：1,000名 第2部：各分科会500名
※申込数が定員に達した場合、受付終了となります。
- **申 込 方 法** 連合会ホームページ会員専用ページにアクセスのうえ、「お知らせ」の申込フォームからお申し込みください。
- **申 込 期 間** 【来場参加者】 2023年10月2日(月) 10：00～10月25日(水) 17：00
※申込期間締切後約10日以内にお申込み結果及び参加費支払方法をメールにてご案内します。
※会場は品川駅付近を予定しています。会場詳細については、来場参加いただく方に別途ご案内します。
【オンライン参加者】 2023年10月2日(月) 10：00～開催当日

■ プログラム

【第1部】

時 間	内 容
13:00~13:05	開会
13:05~13:10	開会挨拶 大野 実 連合会会長
13:10~14:00	(1) 基調講演 (50分) こどもまんなか社会の実現に向けて (仮題) 講演者: 本後 健 (こども家庭庁成育局保育政策課長)
14:00~14:10	休憩
14:10~14:50	(2) 研究成果発表 (40分) AI・デジタル時代における雇用等の課題～IT業界を例に考える～ 発表者: 吉川 洋 (京都会) ＜報告要旨＞ 従来からのIT環境の変化、さらにコロナ禍を契機とした環境の劇的変化を経て、DX (デジタルトランスフォーメーション) やAI (人工知能) 化が進む中、IT業界は世の中における今後の働き方の最先端を進んでいるといえる。 本研究においては、IT業界に特徴的な働き方の多様さや労働環境、働き手の意識などを概観したのち、法理論・法制度の面から、キャリア権の考え方、ジョブ型人事制度、秘密保持義務と競業禁止義務、テレワークの観点からみた労働環境、裁量労働制における労働時間、健康保持と安全配慮義務を主要論点として検討するとともに、労働者とフリーランス双方にまたがる法整備の現状、そしてAIの進展と労働法への影響についても考察し課題を整理した。 そのうえで、IT業界における将来の働き方やIT技術者のモデル像を前提に、従来の法制度や人事諸制度では対応できない新たな働き方に対応しうる将来の法制度として、自律的な労働者の意思に委ねて強行規定を最小限とする考え方で労働法を再定義し、法規定の対象者としてフリーランスも含めた形で、一試案を取りまとめ提言する。
14:50~14:55	(3) 研究助成制度に関する説明 (5分) 村田 毅之 社労士総研所長

【第2部】 分科会 (2テーマ同時開催)

※2テーマ同時進行で行いますので、分科会①、②いずれかを選択しご参加ください (両方のプログラムに参加することはできません)

時 間	内 容
15:10~16:40	分科会① (90分) こどもまんなか政策におけるこれからの両立支援 ～加速化プランと企業に求められる意識・体制変革～ 発表者: 菊地 加奈子 (神奈川会) コメンテーター: こども家庭庁担当者 進行役: 佐川 陽子 (神奈川会)

15:10~16:40 <報告要旨>

急速な少子化・人口減少を食い止めるため、2030年代に入るまでをラストチャンスとして「こども未来戦略方針」に基づいた加速化プランが推進されることとなった。すでに改正育児・介護休業法によって男性育休が促進されているが、育児休業や時短勤務中の収入減への補助など、さらなる強力な経済支援が加わることによって育休取得率・取得期間共に増進することが見込まれる。また、育児期間におけるテレワーク・フレックス勤務といった柔軟な働き方の推進など、休み方・働き方双方へのアプローチが求められていく。

こうした施策は、単にそれぞれの企業における子育て世代従業員の両立支援だけが目的なのではなく、「社会全体で未来人材である子どもを育てる」という意識を醸成し、経済の循環や教育・保育人材の働き方改革にもつながる変革が求められている。

これらを踏まえ、こどもまんなか社会実現と企業価値向上を見据えたこれからの働き方について考察する。

15:10~16:40 **分科会② (90分)**

**リ・スキリングによる企業及び個人の成長の両立に向けて
～職務設計及び人材育成等における課題～**

発表者：島 麻衣子 (東京会)
 コメンテーター：今野 浩一郎 (学習院大学名誉教授/学習院さくらアカデミー長)
 進行役：深澤 理香 (東京会)

<報告要旨>

近年のDX・GXの加速化などにより社会や経済を取り巻く環境は大きく変化し、リ・スキリングの必要性が叫ばれている。政府は、「三位一体の労働市場改革の指針」において、①リ・スキリングによる能力向上支援、②個々の企業の実態に応じた職務給の導入、③成長分野への労働移動の円滑化を進めることを打ち出した。

働き方や必要とされるスキルが大きく変化する時代において、リ・スキリングは企業の存続をかけた経営課題であり、特に外部からの人材確保が容易でない中小企業にとっては、最重要課題といえる。一方で、リ・スキリングを従業員個人に委ねるだけでは、会社にとって本来必要なスキルが得られず、また従業員は学んだスキルを活かすことができずに離職してしまうことなどが懸念される。

本分科会では、リ・スキリングを企業の経営戦略として捉え、やりがいをもって働いてもらうためにはどうすればよいか、また社労士はどのようにかかわっていけるのか議論したい。

第3部 意見交換会 (来場参加者のみ対象)

時間	内容
第2部終了後～ 18:00	登壇者及び来場参加者を交えた意見交換会です。軽食及びドリンクをご用意しています。 ※すべての登壇者が参加するものではございませんのでご了承ください。 ※参加は必須ではありません。なお、意見交換会不参加を理由とした参加費の減額・返金等は致しかねますのでご了承ください。

問い合わせ先 **全国社会保険労務士会連合会 社会保険労務士総合研究機構**
TEL : 03-6225-4870